

校番	65	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	高等学校用
----	----	----------	-------	------	---	-------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立府中東高等学校	校長	小迫 孝太郎	生徒指導主事	富島 俊宏
-----	-------------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『新入生オリエンテーション（スタートアップウィーク）』

取組のねらい『キーワード 高校生になる』

- 高校生活に慣れる（義務教育からの脱却）。
- 正しい人間関係作りを行う。

身に付させたい資質・能力

- 生活習慣の確立（時間を守る）
- 規範意識の醸成（学校・授業のルールを守る）
- 共感的人間関係の育成（集団作り）
- リーダーの育成

取組の具体的内容『キーワード 一体感』

4月10日(月)～20日(木)

- 教職員講話（校長，各主任，担任）
- エンカウンター
- ペップトーク講演会（全校）
- 部・同好会活動体験
- 教科オリエンテーション（英数国社体芸）
- 集団行動



○大縄跳び大会



○校歌練習，披露



◆学年全体

各クラスに分かれて様々なオリエンテーションを行うのではなく、学年全体として行うことで説明や解釈の食い違い等を防止することができる。また、全ての担任が、本校での担任が初めてであったため、教職員にとっても良い方法となった。約2週間、体育館を利用し、教室から机・椅子を運び、教科指導も行った。

◆人間関係作り

本校の実態として、毎年、人間関係がうまく築けない生徒が出る。特に、1年生の間は顕著である。これらの問題が、暴力行為やいじめに発展する場合もある。そのため、早い段階で人間関係作りがで

きるような活動（エンカウンター、ペップトーク）を入れた。

◆競争意識

校歌、大縄跳びや集団行動については、生徒のモチベーションを上げるため、クラスでチームを作り、リーダーを決め、チーム対抗の対戦、評価する形式にした。優秀チームには校長から表彰（賞状・記念品）を行う。また、教職員だけで評価ではなく、生徒同士の評価もさせた。



取組の課題・創意工夫『キーワード 緩急』

○教職員主体と生徒主体

新入生対象のオリエンテーションの多くは教職員からの説明になる。そうすると、生徒主体の活動が少なくなり、心に残らず、やらされた感しか残らない。そこで、生徒が前向きに活動でき、生徒同士で目標に向かうために試行錯誤できる活動を入れた。

○厳しさと楽しさ

物事のスタートが肝心ということもあり、徹底して規律を守ることを求めた。そのなかで、人間関係を構築するために、レクリエーションのような活動も交え、真剣に取り組むなかで、笑顔になれるようにした。

取組の成果（効果）『キーワード 前進』

○リーダーの育成

クラス内でのリーダーを育成することができ、その後の学校行事（文化祭、体育大会）等の進行がスムーズになった。

○問題行動の減少

※1学年の生徒を対象に1月末で集計。

	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
遅刻者数（人／日）	1.4	5.7	3.9
問題行動（件）	8	16	15

○連携強化

クラス内だけでなく学年全体で指導に当たったこと、教職員・生徒が多くの時間を共有したことが、それぞれの人間関係を深めることにつながった。

今後の展開『キーワード 継続』

この度の取組は、本校で初めての試みであった。教職員からの否定的な意見もあった。学年主任が主導でプログラムを組んだため、学年主任や担任は負担となった。次年度以降、同様の取組ができるか否かは課題である。

年度当初の取組だけに終わらせることなく、年間を通して、指導の徹底や取組が必要である。

他校へのアドバイス『キーワード チャレンジ』

この取組は不安しかなかった。学年主任を中心に、入念に準備をし、時間を共有することで、教職員と生徒との人間関係も例年に比べ、早い段階で構築することができた。また、約2週間をやり切ったことで、教職員・生徒ともに充実感・達成感も得ることができた。